

# 日・赤・さいたま



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

[特集] ① 令和6年能登半島地震災害での活動  
② 埼玉県支部の国際支援活動



2024 夏  
vol. 153

一緒に、  
救える。



# 令和6年 能登半島地震災害での活動



## 赤十字マークの重さを知った

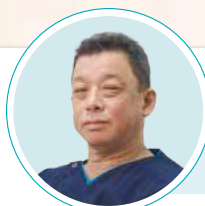
～ 日赤として初めて奥能登の珠洲市に入る ～

さいたま赤十字病院  
八坂 剛一 医師



通行できる道を探しながら、七尾市から珠洲市まで通常2時間の経路を6時間かけて向かいました。到着したのは生死の境と言われている72時間を少し超えた頃。倒壊していない建物は少ないくらいでももちろん電気も水もない。当初は本部での活動を予定していましたが、「待っている人がいるので行くしかない」と考え、自衛隊とともに孤立避難所を巡回することにしました。

避難所に着くと、お薬手帳を持って私の前に並び、「この薬は飲まなくてもなんとかかなりますか」とアドバイスを求めてくる方も。「見捨てられているかと思っていた。日赤さんが来てくれてよかったよ」と声をかけていただき、赤十字マークの重さを改めて心に刻みました。



## とにかく酷い状況だった

～ 過酷な状況下での活動 ～

小川赤十字病院  
吉田 裕 医師



発災から約1週間後の活動。当時は、水も電気もトイレも無い暗闇、とにかく酷い状況でした。さらに一晩で15～20cm中での活動を余儀なくされました。私たち救護班も、屋外に仮していたので、避難生活を送る被災者の大変さを身に染みて感じたため、救護班が初めて足を運んだ避難所や住宅では、「お医わせて出迎えてくださり、中には涙を流しながら感謝する方もれたのに私たちのことを心配し、親切にいただいたこと」帰還後は、被災地の厳しい状況を多くの方に知っていただき、祈って、NHKをはじめ多くのメディア取材に対応しました。

1/1 16:10

発災

1/3

1/4

1/6

1/11

1/12

1/14

1/15

1/17

★職員参集  
救護班病院待機  
情報収集開始

◆埼玉県災害医療  
コーディネーター  
として職員を県庁  
に派遣

◆日赤災害医療  
コーディネーター  
チームを石川県  
支部および珠洲市  
に派遣

★災害義援金  
受付開始

●医療救護班を派遣  
(当支部第1班)

★救護員宿泊用テント  
設営部隊を派遣



▲DMAT※を派遣  
※県からの派遣要請に  
より派遣される災害  
派遣医療チーム。

▲医療救護班を  
派遣  
(当支部第2班)

◆日赤災害医療  
コーディネーター  
チームを派遣



◆大野支部長(県知事)  
に活動報告@県庁

◆医療救護班を  
派遣  
(当支部第3班)

◆大野支部長  
激励@さいたま

時系列内  
施設凡例

★支部  
●小川赤十字病院  
◆さいたま赤十字病院  
▲深谷赤十字病院

※活動期間は班により異なる。 ※特に記載のないところは、珠洲市に派遣。





令和6年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。当支部では発災直後から救護態勢を整え、3月に活動を終えるまで、赤十字病院をはじめ支部管内施設から救護班や災害医療コーディネートチームなど延べ128人の職員を被災地に派遣し、それぞれの任務を懸命に遂行しました。

今号では、時系列で活動を報告するとともに、現地で活動に当たった職員の声をお届けします。



Voice 03



## 気軽に受診できる臨時の救護所を開設

～ 地元の医療機関の負荷を軽減 ～

深谷赤十字病院  
宮嶋 玲人医師



珠洲市には総合病院が1カ所しかなく、パンクしている状態でした。日赤は1月14日、道の駅の敷地に臨時の救護所を開設。軽症患者が気軽に受診できる環境を整えました。発熱された方、慢性疾患の薬が無くなった方が多く訪れ、多い日には45人を診察しました。

「かかりつけは閉まっており、どこで薬がもらえるか不安でした」「話しをできることがありがたい」との声をいただきました。

避難生活が長くなりどなたも心身ともに疲弊している時期でしたので、被災された方々の健康維持はもちろん、現地の病院やクリニック職員の負担軽減につなげたいとの思いで活動しました。



## 長引く活動で疲弊した支援者をケア

～ 明日につながる癒しの時間を ～

深谷赤十字病院 反町 かおり看護師長

こころのケアは、リラクゼーションを通じて何気ない会話を重ね、疲れを癒していただく活動です。私たちは輪島市で被災地支援のために働く自治体や病院職員などのケアを担当しました。復興に向けて支援している方も日々ストレスを感じながら活動していることが伝わってきました。

足浴やハンドケアを受けた方から、「明日の支援活動も頑張れる」「毎日通いたい」と声をかけていただいて、嬉しく思いました。



帰還後の  
インタビュー



テレビ埼玉YouTubeチャンネル



Voice 02

く、多くの家は壊れ、夜は深も雪が積もり路面も見えない設のテントを設営して寝泊まりました。発災早期の活動であった者さんが来てくれた」と手を合いらっしゃいました。被災さが強く心に残っています。支援の輪がさらに広がることを

1/19 1/21 1/22 1/23 1/24 1/27 1/30 2/1 2/2 2/6



救護員宿泊用  
テント撤収部隊※  
を派遣

※ボランティア含む。



医療救護班を  
派遣  
(当支部第4班)



病院支援要員を  
市立輪島病院  
に派遣



DMATを  
七尾市に  
派遣



日赤災害医療  
コーディネート  
チーム※を石川県  
支部に派遣

※特別養護老人ホーム  
彩華園職員を含む。



医療救護班※を  
派遣  
(当支部第5班)

※埼玉県赤十字血液  
センター職員を含む。



病院支援要員を  
市立輪島病院  
に派遣



日赤災害医療  
コーディネート  
チームを石川県  
支部に派遣



病院支援要員を  
市立輪島病院に  
派遣



活動で使用了災害救護資機材を  
救護ボランティアが整備  
@埼玉県支部

(県知事)が  
ま赤十字病院

# 全社的な活動状況 (令和6年5月7日現在)

## 職員・ボランティアの派遣

	医療救護班 (DMAT含む) 延べ <b>342</b> 班を派遣
	日赤災害医療 コーディネーターチーム 延べ <b>119</b> チームを派遣
	支部支援要員 <b>68</b> 人を派遣
	赤十字ボランティア 延べ <b>1,709</b> 人が活動

## 救援物資の配布

	毛布 <b>16,005</b> 枚		緊急 セット <b>2,224</b> セット
	安眠 セット <b>5,230</b> セット		その他 携帯型簡易トイレ <b>3,400</b> 個など
	<b>こころのケア班</b>	延べ <b>45</b> 班を派遣	



今回の救護活動を振り返って

災害から命を守るために  
これからも使命を果たしていく

さいたま赤十字病院  
田口 茂正 医師

「自活できる組織」として奥能登での活動を期待されていた赤十字は、1.5次や2次避難が始まった後も、地元に残る被災者への支援を続けました。当支部は、全国のモデルとされる救護訓練を毎年開催し、質の高い救護員を多数養成しています。また昨年度は、関係機関の協力のもと秩父地域で近隣1都8県支部の合同訓練を行いました。孤立集落や避難所の巡回を実践しながらの内容で行い、この訓練に参加した多くの救護員が今回現地へ派遣されました。組織的に地域の要望に沿った活動を展開できたこと、全国から集まる救護班を調整するコーディネーターを最も多く派遣できたことは、日頃の訓練の成果であると考えています。

現地の過酷な状況の中で身体的、精神的に追い込まれることもありましたが、「**私たちが待っている被災者がいる。そして、その活動を応援してくださる皆さまがいる**」という思いを力に活動を続けることができました。いつどこで災害が発生するかわかりません。災害救護は赤十字の「平常業務」として、これからもしっかり備えてまいります。



訓練の様子



2/7

◆★ 医療救護班※を派遣  
(当支部第6班)

※埼玉県赤十字血液センター職員を含む。

2/11

◆ 病院支援要員を市立輪島病院に派遣

2/12

▲ JRAT※を派遣  
※リハビリ専門チーム

2/13

●★ 医療救護班を派遣  
(当支部第7班)

2/16

◆ 病院支援要員を市立輪島病院に派遣

2/20

◆★ 医療救護班※を派遣  
(当支部第8班)

※埼玉県赤十字血液センター職員を含む。

2/27

▲ こころのケア班を輪島市に派遣  
(当支部第1班)

2/28

◆ 日赤災害医療コーディネーターチーム※を派遣  
※特別養護老人ホーム彩華園職員を含む。

3/1

● 日赤災害医療コーディネーターチームを石川県支部に派遣



活動にはご支援が必要です

活動資金へのご協力をお願いします。



# 埼玉県支部の国際支援活動



— 世界191の国と地域に広がるネットワークで“苦しむ人を救う” —

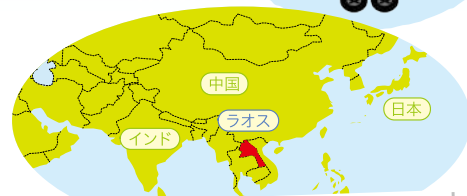
## 人的支援

### 🇱🇵 ラオス赤十字社の救急法普及支援に支部職員を派遣！

～ 健康で安全な生活を送れることを願って ～

特に開発が遅れている後発開発途上国であるラオス。医療水準は近隣諸国と比べても極めて低い状況にあり、人口1,000人当たりの医師の数は世界平均を大きく下回っています。そうした背景から、緊急時には地域住民が自分たちで応急手当を実施することが重要で、同国赤十字社と日赤は、2019年10月から協力して「救急法の知識と技術の普及」に取り組んでいます。

今年2月24日～3月3日にかけて、本社と支部の職員がチームを組んで現地を訪問し、取り組み状況の確認や、講習内容・指導方法等の助言を行いました。高校で行われた講習会の視察やボランティア救急隊の訪問などのプログラムの後、振り返りと技術指導を実施。当支部から参加した救護・講習課の松村主査(当時)は、気道異物除去の効果的なデモンストレーションのやり方や身近なものを使った手当てを伝達しました。ビニール袋を使って腕を吊る方法は、モノが不足し医療へのアクセスが厳しい地方で役立つと好評だったそうです。



## COMMENT



救護・講習課  
松村主査(当時)

特に印象に残っているのは、昨年講習に参加したという女子学生へのインタビューです。参加後、突然倒れた祖母に無我夢中で救命処置を行ったとのこと。「助かって良かった」と語る彼女の笑顔を見て、この事業がラオスの人たちの命を救うことに貢献できていることを実感しました。

ラオス赤十字社の救急法普及の取り組みには、教本等の整備や資材・指導員数の不足など、まだまだ多くの課題があります。しかし、今回の派遣を通じて支援を必要とする現場を「見て」、活動する方々の声を「聴いて」、成果を「感じる」ことができました。今後も、同国赤十字社と取り組みを進めていきます。



祖母を助けた女子学生

## 資金支援

### バングラデシュとインドネシアを支援！

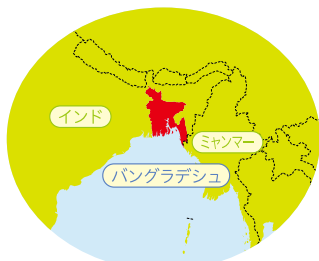
～ 北関東3県支部と想いをひとつに ～



#### バングラデシュ ～保健医療支援事業～

2017年以降、ミャンマー・ラカイン州で発生した暴力から逃れるため、隣国のバングラデシュ南部へ多くの人々が避難しました。人口が密集する難民キャンプでは衛生状態が悪く生活環境に大きな改善は見られていません。

日赤は保健医療サービスの提供、現地の医師・看護師等の育成などをサポートしています。



非感染性疾患患者の診察の様子



#### インドネシア ～コミュニティ防災強化事業～

インドネシアはアジアの中でも自然災害が多い国のひとつです。地震、津波、火山噴火、洪水などの災害が頻発しており、防災活動をさらに進めるとともに、教育現場での防災知識の普及や人材の育成が急務とされています。

日赤は防災ボランティアや防災教育指導者の育成、村落の防災体制の強化などをサポートしています。



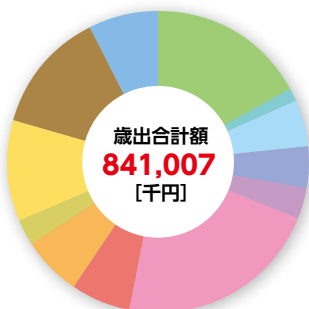
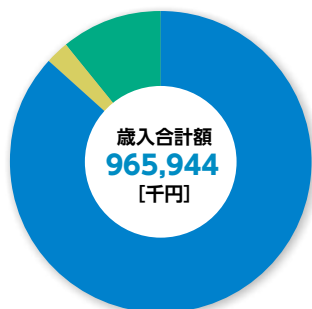
日赤の防災セミナーを紹介する日赤職員

# REPORT

会員の皆さまへご報告

支部はじめ県内の医療施設、社会福祉施設の令和5年度決算および令和6年度予算が評議員会で承認されました。  
今年度も、皆さまから託された思いを胸に活動してまいります。

## 令和5年度決算

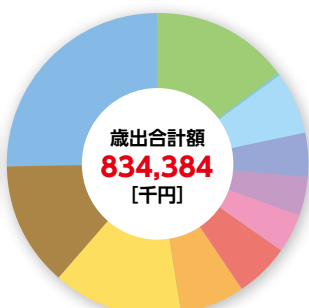
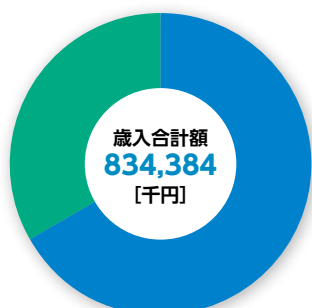


項目	金額 [千円]
1 活動資金収入 ※活動資金収入のうち自治会・町会による収入364,113千円	838,844
2 令和5年台風第2号等大雨災害義援金受入	23,596
3 事業収入・その他	103,504
<b>歳入合計額</b>	<b>965,944</b>

項目	金額 [千円]
1 災害救護活動のため	143,305
2 国際救援活動のため	11,524
3 救急法・幼児安全法等講習普及のため	42,805
4 青少年赤十字活動のため	37,482
5 赤十字ボランティア活動のため	28,719
6 救急医療活動や看護師養成のため	183,500
7 献血思想の普及や地域社会福祉活動推進のため	54,503
8 各市区町村での赤十字活動のため	53,011
9 令和5年台風第2号等大雨災害義援金送金	23,596
10 赤十字会員の加入促進や広報活動のため	91,742
11 業務運営管理等のため	109,551
12 積立金	61,269
<b>歳出合計額</b>	<b>841,007</b>

◇差引額[124,937千円]は、次年度に繰り越しました。 ◇赤十字病院および社会福祉施設は施設ごと、血液センターは血液事業全体での特別会計のため、この決算には含まれていません。

## 令和6年度予算



項目	金額 [千円]
1 活動資金収入	558,000
2 事業収入・その他	276,384
<b>歳入合計額</b>	<b>834,384</b>

項目	金額 [千円]
1 災害救護活動のため	123,753
2 国際救援活動のため	3,277
3 救急法・幼児安全法等講習普及のため	55,587
4 青少年赤十字活動のため	39,375
5 赤十字ボランティア活動のため	33,187
6 救急医療活動や看護師養成のため	35,900
7 献血思想の普及や地域社会福祉活動推進のため	47,922
8 各市区町村での赤十字活動のため	58,500
9 赤十字会員の加入促進や広報活動のため	116,637
10 業務運営管理等のため	109,646
11 積立金	210,600
<b>歳出合計額</b>	<b>834,384</b>

## PRESENT プレゼント

応募者の中から抽選で5名様に！

ハートラちゃんグッズ



ご意見  
お聞かせください！



### プレゼント応募方法

WEBフォームからご応募ください。

<https://forms.office.com/r/icM3s4jgLq>

応募締切 8月31日(土)



当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。いただいた個人情報は、プレゼントの発送およびご連絡にのみ使用いたします。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえ、当支部が行う広報活動に活用させていただく場合があります。応募にかかる通信料はご負担ください。

## いろいろな形での寄付方法のご案内

### 遺贈・相続財産寄付

故人の「財産を社会のために役立てたい」という思いを、災害などで苦しむ人々を救う活動に繋げます。(税制上の優遇措置があります)



### 赤十字支援型 自動販売機

飲料メーカーの売り上げの一部が赤十字の活動資金になります。



### クレジットカードや 金融機関の口座振替で ご寄付

毎年もしくは毎月手軽に、ご寄付いただけます。



赤十字活動の"今"伝えます！ 公式SNS運用中！

